

令和6年度 第6回 豊田市稲武地域会議全体会 会議録

- 日 時 令和6年9月19日（木）午後7時00分～8時02分
- 場 所 稲武支所 団体会議室
- 出席者 委 員：安藤直人、今泉喜規、石橋佳子、海野浩、櫻井麻沙子、佐々木祐次、高崎太一郎、瀧澤育夫、土本隆雄、土屋桂子、西尾昌直、深見友和、宮島明菜
(欠席者)：中拓二、三江元博
事務局：梅村支所長、岡部副支所長、柄澤副主幹、鈴木担当長、原田主査

■次第

- 1 開会
- 2 副会長あいさつ
- 3 協議事項
(1) 提言検討について
- 4 その他

■議事（要約）

- 3 協議事項
(1) 提言検討について

提言について協議が行われ、委員から提案された取組内容案を基に、取組の中での地域と市の役割分担や追加する内容について協議。

各委員からの意見は以下のとおり。

- ・いなぶラボで夏休みに中学生向けのオンライン講座を行った。大学の先生から普段は学べない科学的な内容の話聞くことができ、中津川の子どもと意見交換する機会もあり、子ども達も楽しんでた。
- ・学校の授業でいなぶラボのような活動をするのはカリキュラムの問題で難しい。稲武で広い視野で学ぶ機会があるのは面白い。
- ・「稲武は働く場所が少ない」という意見があったが、職種を選ばなければ働く場所はある。人手不足で外国人を雇っている企業も多くなっている。
- ・田舎で起業して住みたいという人は多い。稲武はポテンシャルのあるエリア。
- ・「大人からの一方的な先入観の意見が多い」という意見には同感。
- ・体験の場や機会を作るという提案があったが、子どもと祖父母と一緒に遊べる場所があると良い。Uターン移住もしやすくなる。人口減少は止められないため、今の活動の必要性を精査しながら、新しいものを作っていくことが良いと思う。
- ・社協では金曜日の午前に多世代交流の場として集会室を開放しているので活用してほしい。
- ・他地区の民生委員からは「稲武は山や川があって子どもが遊べるので良い」という意見をもらうが、遊ぶ場所が整備されていない。
- ・以前に学童（放課後児童クラブ）を作ろうという動きがあったが、利用条件や利用料などにより、利用希望者が少なく断念したことがある。まちなかの学童とは利用条件や利用料が違う形の学童でなければ設置は難しいと思う。

- ・現在、バス通学の子ども達が過ごす場所として子ども館があるが、施設周辺の駐車場や構内道路で走り回るため危ないという状況がある。小学校内に子ども館のように、学校運営と切り離れた施設ができれば、子ども達は安全に遊べる。
- ・学童の利用希望者が少ないのであれば、ファミリーサポート事業を活用してはどうか。そちらの利用者が増えてきた時には、学童への移行も考えていけないか。
- ・稲武の子ども達はまちなかの子ども達と同じ豊田市民であるため、住む場所にかかわらず同じ支援が受けられるよう、市への提言に盛り込んでいけると良いと思う。
- ・地域の活動に子ども達の参加機会を作る案については、区長会にも情報提供したうえで進めていく。

4 その他

各委員より、所属団体での活動予定などについて情報提供。

次回開催：令和6年10月17日（木）午後7時 稲武支所 団体会議室